

提言

「平和だから学べる幸せを伝えたい」

夏休み明けの生徒集会（前後期制なので始業式ではない）で、8月6日に広島に行った時に感じたことを少しだけ話をした。

私の母の女学校時代は戦争中だった。小さい頃は、ともに授業もなかった、授業どころか勤労奉仕などの作業が多かったということから、敗戦前には銀紙が降ってきたとか、やつと戦争が終わったら、教科書にすみ塗りをしたという話や亡くなった祖母の弟は南方で戦死したことになるが、実際は餓死だったらしいということまで、よく聞かされた。その頃は、また戦争の話ぐらいにしか思っていなかった。その母も90歳になろうとしている。たまたま、母は熊本的女学生だったから、空襲に遭うこともなく、原爆の被害にあうこともなかった。だから、私が存在し



玉名高等学校校定時制

水谷 博子 さん

た。その日はちょうど9日だった。会が始まる時に、代表の大学生から「今日は8月9日です。自分は長崎出身です。11時2分になったら、黙祷したいと思っています」と。その時に、長崎の人たちにとつて、9日は特別なのだと、長崎から離れたも9日には黙祷を捧げるのだと。熊本出身

りしたのが、公園内のいたるところに、慰霊碑があることも初めて知った。町内の慰霊碑、損保会社の慰霊碑などである。そして、その慰霊碑ごとに慰霊祭の準備が進められていた。

平和について話したのは初めてではない。以前にも、大きな穴が空いている黒板のある教室で勉強しているガザの写真を使って、こんな状態でも勉強している子どもたちがいることを話したことがある。私は、自分の母から戦争中の話を直接聞くことができな

ただであれば、気づかない意識の差があると感じた。そのことを肌で感じたかと思っていた。広島には4日から入ったが、平和記念公園周辺はすでに6日の準備が進められていた。4日の朝には、「原爆犠牲国民学校教師と子ども

新しくなった平和資料館にも足を運んだ。夏休みということもあって、海外からの見学者や全国から見学に来ていた人たちが溢れかえっていた。内容が変わって、情に訴えるような内容が多いと聞いていたが、写真やメッセージを読んでいくうちに、涙が溢れてきた。原爆で犠牲になったこの子どもたちが生きていたら、どんなおとなになっていた

平和な生活を守るには政治に関心を持たなければいけないことを伝えたいと思っている。

ている。もし、母が、広島や長崎にいたなら、どうなっていたらと思う。それは、韓国の慰安婦のおばあさんの問題も同じである。慰安婦のおばあさんと母は同年代である。たまたま、母は日本に生まれたから、被害にあわなかっただけだ。

数年前、玉名市内にある大学の学生サークルが夏休みに大学生と高校生の集いを開い

た。その日はちょうど9日だった。会が始まる時に、代表の大学生から「今日は8月9日です。自分は長崎出身です。11時2分になったら、黙祷したいと思っています」と。その時に、長崎の人たちにとつて、9日は特別なのだと、長崎から離れたも9日には黙祷を捧げるのだと。熊本出身

平和について話したのは初めてではない。以前にも、大きな穴が空いている黒板のある教室で勉強しているガザの写真を使って、こんな状態でも勉強している子どもたちがいることを話したことがある。私は、自分の母から戦争中の話を直接聞くことができな

た。その日はちょうど9日だった。会が始まる時に、代表の大学生から「今日は8月9日です。自分は長崎出身です。11時2分になったら、黙祷したいと思っています」と。その時に、長崎の人たちにとつて、9日は特別なのだと、長崎から離れたも9日には黙祷を捧げるのだと。熊本出身

た。その日はちょうど9日だった。会が始まる時に、代表の大学生から「今日は8月9日です。自分は長崎出身です。11時2分になったら、黙祷したいと思っています」と。その時に、長崎の人たちにとつて、9日は特別なのだと、長崎から離れたも9日には黙祷を捧げるのだと。熊本出身

た。その日はちょうど9日だった。会が始まる時に、代表の大学生から「今日は8月9日です。自分は長崎出身です。11時2分になったら、黙祷したいと思っています」と。その時に、長崎の人たちにとつて、9日は特別なのだと、長崎から離れたも9日には黙祷を捧げるのだと。熊本出身

た。その日はちょうど9日だった。会が始まる時に、代表の大学生から「今日は8月9日です。自分は長崎出身です。11時2分になったら、黙祷したいと思っています」と。その時に、長崎の人たちにとつて、9日は特別なのだと、長崎から離れたも9日には黙祷を捧げるのだと。熊本出身